

由と権利とがある。労働市場は資本主義の失業者——貧乏者の労働軍——がある。彼等の利益を争うてあるからである。

従つて今日には主従関係の昔の如くは備主は被備者の生涯を保障し被備者の生涯を改善しその健康を保護する何等の道徳上の責任がなはばかりなく、かくすること何等の利益も抱かぬ故に被備関係が対等の立場を立つ備主と被備者との自由契約をせむべく今日の日被備者たる労働者の利益を擁護するものはこの労働者自身であるのみである。労働者は自分自身の實力によつて外には労働条件を改善し生涯の向上を計り自己の幸福を増進することは出来ぬ。

主従関係の時代には主人は被備者の生涯と幸福とは對して責任を負ふた。それ故に主人は對する柔軟と服従とは、被備者の道徳と認められぬに居た。然るに今日の自由契約の下では備主は只備

主自身の利益のみを基りて行動する一切の自由と権利を以て居る。その如く被備者たる労働者は備主の利益を以て行動する自身の新利益を以て行動する自身の利益を擁護し労働条件を改善し生涯の向上を争つたの増進を計るためは備主と對等の行動を取らぬと権利を保持せねばならぬ。服従は主従関係の下で被備者の道徳である。然るに今日には主従関係の昔の如くは備主は被備者の生涯を保障し被備者の生涯を改善しその健康を保護する何等の道徳上の責任がなはばかりなく、かくすること何等の利益も抱かぬ故に被備関係が対等の立場を立つ備主と被備者との自由契約をせむべく今日の日被備者たる労働者の利益を擁護するものはこの労働者自身であるのみである。労働者は自分自身の實力によつて外には労働条件を改善し生涯の向上を計り自己の幸福を増進することは出来ぬ。